

## 第 60 回 経営協議会 議事概要

- 1 日 時 平成 26 年 5 月 28 日 (水) 13 時 00 分～15 時 13 分
- 2 場 所 新潟大学駅南キャンパス ときめいと 講義室 A
- 3 出席者 12 名 (高橋学長, 菅原委員, 大浦委員, 高橋均委員, 金子委員, 澤田委員, 石委員, 大崎委員, 神保委員, 高橋道映委員, 敦井委員, 三輪委員)  
(ほか田代監事, 近野監事がオブザーバー出席)  
※欠席: 鈴木委員, 青山委員, 森委員

### 4 議事概要について

第 59 回の経営協議会議事概要が確認された。

### 5 審議事項

#### (1) 平成 27 年度概算要求事項について

平成 27 年度概算要求事項 (組織整備, プロジェクト, 設備及び施設整備) について, 資料に基づき審議が行われ, 要求事項の最終的な決定は学長に一任することが承認された。

なお, 概算要求書の提出締切が次回の本協議会開催よりも後となる場合には, 次回改めて審議することとされた。

[主な意見及び質疑等 ○: 学外委員の発言, □: 本学側の発言]

(組織整備, プロジェクト, 設備)

- 学長のリーダーシップ枠が今年の予算で用意されている。予算額としては小さいが, 第 3 期に向けての前哨戦となるため, どういう要求書を出すかということに意味がある。プロジェクト要求枠が減っていることは確かだが, 新規要求のための大学の体制をどう整えるのか, どこに力点を置くのか, 加速の 2 年間にどのような準備をするのかという戦略を特別措置枠の要求時に取り入れる方向で進め, それとの関連性がこの概算要求と一致している方が良いと思う。部局の尊重ということは大事であるが, 部局に対して, 方向性を作らないと今までの概算要求のやり方は意味がなくなってくると思う。

- 機能強化で言えば, 学長のリーダーシップの強化を中心として, 大学全体として向っていく方向を示し, 全体を踏まえて, 要求していきたい。

(施設整備)

- 耐震対策はもちろんだが, 費用対効果については, どうなっているのか。文部科学省に対してアピールするもの, 前向きなものを要求していく必要がある。
- 個別に文科省へ相談しているが, 経年劣化などもあるのでアピールしていきたい

い。

## (2) 経営協議会から選出する学長選考会議委員の選出について

学長選考会議委員の任期満了に伴う後任委員の選出について審議が行われ、大崎委員、神保委員、敦井委員、石委員及び高橋委員を学長選考会議委員として選出することが承認された。

## (3) 役員の退職手当について

平成 26 年 3 月 31 日付けで任期満了により、退職した内山前監事に係る役員の退職手当の業績勘案率について審議が行われ、増減なしとすることが承認された。

なお、議長から本決定に基づき、退職手当の支給手続きを行うことについて発言があった。

## 5 報告事項

### (1) 平成 25 年度監事監査報告について

澤田理事から、平成 25 年度監事監査報告書の概要及び監事監査報告書の監事所見に係る対応について報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，□：本学側の発言〕

- 監査報告というのは、企業では当然行っているが、きわめて重要な提案だと思う。これをどう処理するかは、学長の姿勢に掛かっており、重要度や緊急度は、学長の考え方一つ、そこに新潟大学としてのすがたが見えてくる。今後どのように実施していくか、形にしていくかが重要であり、きちんと、進めて頂きたい。

### (2) ミッションの再定義について

学長から、法学分野を除く各分野に係るミッション再定義の結果について報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，□：本学側の発言〕

- ミッションの再定義は、文科省から始まったものだが、大学として了承したのであれば、その内容で進める必要がある。全体としては、良いと思うが、学長のリーダーシップである特別措置枠の予算要求に繋がらなければ、無意味になる。例えば、第 3 期には、新構想学部の設置計画があるが、それに至る戦略が必要である。
- 文科省に対する予算要求ではミッションの再定義との関連性を問われる。また、グローバル関連の要求には、新潟の特色で打ち出さなければ、競争には勝てないだろうということで、アジアを意識して作成している。

### (3) 新潟大学の将来構想について

学長から、本学執行部を中心にしてとりまとめた新潟大学の将来構想について報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，□：本学側の発言]

- 「日本海に面する大規模総合大学として、東アジア地域を基点に世界を見据えつつ、教育と研究及び社会貢献を通じて」との記載があるが、まさにこれを具体化して頂きたい。大きな課題である新構想学部について、どういう分野の教育研究に取り組むかを明確にする必要がある。学部を一つ作るのも大変だが、国立大学改革プランに言われるグローバル化、新潟大学で言えば、いわゆる日本海に面する新潟大学としての対岸を意識した観点で、個性のある学部を作るとする理念と方向を打ち出し、検討する組織を作るべきではないか。また、国際研究拠点化にするには、ヘッドハンティングが必要ではないか。年俸制の導入が浸透していると思うが、それを有効活用し、優秀な研究者を良い待遇で措置するということが必要では無いか。
- ヘッドハンティングについては、超域学術院の会議で、年俸制やテニユアトラック制度をスタートする方向でまとめ、最終調整段階にある。
- 新潟大学のすがたを表現するのに、単科大学とは違い、総合大学では難しいとは思いますが、どうやって大学のバリューを作り出すのかとなると、東日本、日本海でまとめるのが良さに繋がってくると思う。なお、学生の質の問題で企業の立場でいうと、新潟大学の学生はいい意味で芯が強いと思う。頭でっかちよりは、人間教育を受けて社会に出て行くことは、企業の中では非常に大切なこと。バリューというものが学風の中に生かされる教育のあり方をお願いしたい。新潟大学にはこれがあるから入学したかったという特色を持つべきである。
- これがあるから新潟大学を選ぶというような考えは全学の意見を聞いても出にくく、この点は、学長のリーダーシップとなるが、重点と特色をどうやって新たな学部の構造に取り入れて、強くアピールするかということではないか。
- 確かに、全学の意見を聞けば最大公約数になり、特色も無くなる。外から見れば、何の魅力もないものができあがるということは認識している。
- 学生の力を付けるため、いかに主体的な学びに取り組めるか、或いは、新しい分野に挑戦できるかが大事だと思っている。グローバル化ということもあるが、なるべく学生には大学の外に出ていろいろな体験をさせ、それを可能にするように学事暦を柔軟化し、留学のチャンスを作りたい。また、語学教育やNBASで学んだことの振り返り、また、経験した後に次に何を勉強したいか明確になるような教育システムを作りたいと考えている。
- 新入生に貴方は新潟大学に何をしに来たのか、先生が目線だけでなく、学生目線でアンケートを聞くのも良いのではないか。
- 学生との対話の機会があるので、聞いてみたい。

□ 今後はIR機能を強化し、外部の方からのニーズを捕まえて行きたい。

**(4) 平成25年度卒業（修了）者の進路状況等及び就職支援の取組について**

大浦理事から、平成25年度卒業（修了）者の進路状況等及び就職内定状況について報告があった。

**(5) 平成26年度入学者選抜試験実施状況について**

大浦理事から、平成26年度新潟大学入学者選抜実施状況について報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，□：本学側の発言]

○ 辞退者のフォローアップも必要である。最近は経済面以外の理由もあり，その原因を調査し，分析する必要があると思う。

**(6) 平成25年度外部資金受け入れ状況について**

金子理事から、平成25年度の外部資金受入状況について報告があった。